



よい みょうじょう 宵の明星 金星

この頃、夕方の西の空に明るい星が見えることに気が付いた方がいらっしゃるのではないのでしょうか。これは、「宵の明星」と呼ばれる惑星・金星です。夕方の事をちょっと古い言葉で「宵」といいます。明星とは明るい星という意味ですが、「宵の明星」「明けの明星」という場合は慣例的に金星を指します。

金星は、今年の4月から7月半ばまでは、西の夕空に見え続けます。太陽から最も離れて見えるのが6月4日で、金星が沈むのは夜10時なので、9時半頃までは楽に見ることができます。最も明るく輝く7月上旬にはUFOだと思い込む人が現れることが予想されますが、騙されてはいけません。

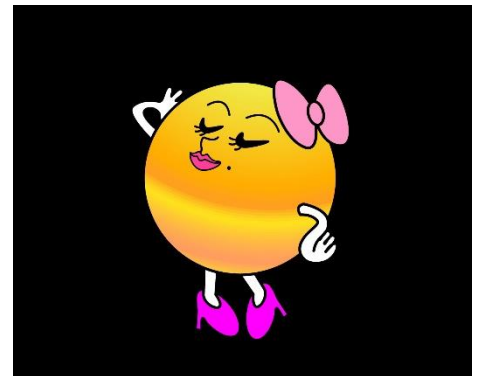
金星は、惑星の中では白く輝くので昔の中国では「太白」とよばれました。西洋ではその白さが美しい女性を思わせたのか、愛と美の女神「ウェヌス」(Venus)と呼ばれました。日本人には英語読みの「ヴィーナス」がおなじみでしょう。

金星は、太陽のまわりを地球の1つ内側の軌道で回っています。大きさは地球とほぼ同じですが、表面の温度は摂氏460度と鉛が溶けるほどの高温です。厚い硫酸の雲に覆われた、火山が活動する金星の地表は、女神のイメージとはかけ離れています。

ギャラクシティでは、現在よく見えている金星の写真を募集しています。みなさんがお住まいのところから町の景色と一緒にスマホやデジカメなどで撮影してみてください。良い写真が取れたら、「みんなの写真展～金星のある風景」へ応募して下さい。

また、4月30日には、JAXA 宇宙科学研究所の佐藤毅彦教授による天文講演会「金星の素顔をさぐる」を開催します。日本が誇る金星探査機「あかつき」による観測結果、最新の金星についての情報をお話いただきます。申込受付中です。

「春宵一刻値千金」といいます。春の宵は千金の価値があるという意味です。ゴールデンウィークの宵は、金星に親しんでみてはいかがでしょうか。



「きんせいさん」 プラネタリウム番組
「ぼくたち惑星8兄弟」より。塚田洋子